

マシン油乳剤 機械油乳剤95	取扱メーカー： 協友アグリ，クミカ，サンケイ， 住友化学，一農，琉産 原体メーカー： ———
成分： マシン油……………95.0 % その他 PRTR 該当成分： ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…1.1～1.6%	性状： 淡黄色澄明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第4石油類（非水溶性）・危険等級III

【品目特性】……………

- カイガラムシ，ハダニ類を始めとする越冬害虫の防除剤として用いられ，各種の抵抗性ハダニにも有効である。
- 主として冬期用に組成されたマシン油で，かんぎつには夏期にも登録があるが，夏期使用の場合は，一般に精製マシン油97を使用する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈かんぎつ〉

- 冬期散布：12月下旬～1月中旬，又は3月に散布する。
- ムラのないように散布し，散布後に降雨が予想される時は散布をさける。

〈落葉果樹〉

- 12月下旬に散布するか，芽の動き出す前の散布とする。

〈りんご〉

- 芽生前の散布の場合は，できるだけ温暖な日（5℃以上）に散布すれば，葉害のおそれも少なく効果的である。

〈もも〉

- アブラムシ類を対象とする時は，モモアカアブラムシなどの休眠卵で樹上越冬するアブラムシ類を対象に発芽前に散布する。

〈桑〉

- 発芽後に散布すると葉害を生じるので，冬期又は夏切直後に使用する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 散布液調製後は速やかに使用する。
- 冬期散布は，時期が遅れないよう芽の動き出す前には散布を終了させる。
- 散布直後の降雨は，効果が低下するので，特に冬期散布においては，好天の続く時に使用する。
- りんごの芽生前の散布は温暖な日（5℃以上）を選ぶ。
- うめに使用する場合には，落葉期での散布はさける。
- 石灰硫黄合剤，ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤，TPN剤など及び銅剤との混用はさける。
- 高温時の散布では葉害を生じやすいので，散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- かんぎつに使用する場合は下記の事項に注意する。
 - 散布後，葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがあるが日数の経過に従って消失し，落葉を助長することはない。
 - ジチアノン剤との近接散布は果実に葉害を生じる危険があるのでさける。
 - 3月に使用する時は，なるべく早めに散布する。この場合石灰硫黄合剤の散布はさける。
- 落葉果樹に使用する場合は下記の事項に注意する。
 - 芽が動き出してから散布すると葉害を生じるおそれがあるので，発芽前に散布する。
 - 樹勢が弱っている場合は葉害を生じるおそれがあるので散布しない。

【安全対策上の注意】

- 魚類, 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので, 使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む 農薬の総使用回数
か ん き つ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30～45倍	冬期	—	散布	—
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類	100～200倍	夏期			
落 葉 果 樹 （なし,りんご, かき,もも）	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及びその越冬卵	16～24倍	—			
落 葉 果 樹 桑	カイガラムシ類	12～14倍				
り ん ご （北部日本 芽生 前に散布の場合）		30～45倍				
も も	アブラムシ類	25倍				